

「家庭科での年金」について

全国家庭科教育協会（オブザーバー）

常任理事 植村 徹 （筑波大学附属駒場中学校・高等学校）

常任理事 宮田恭子（早稲田大学高等学院）

※注：組織紹介以外は、植村・宮田個人の見解です。

年金広報検討会（第20回） 2025年4月23日

全国家庭科教育協会(ZKK)とは

- 1950年に家庭科教育推進のための小中高大の家庭科教員の全国組織として創設
- 創設以来、小・中・高等学校の家庭科教育の充実振興を目指して活動を継続
- 特に高校においては唯一の全国団体
- 研究大会、研究調査の実施、授業力向上の研修会、ZKK機関誌家庭科の発行

小中の家庭科での年金の位置づけ

- 小学校家庭科「消費生活・環境」
：買い物や契約に関する学習
- 中学校技術・家庭科「消費生活・環境」
：計画的な金銭管理、消費者の権利・責任
- 「年金」「社会保障」は登場せず

高校家庭科 学習指導要領では

C 持続可能な消費生活・環境

(1) 生活における経済の計画

イ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや**社会保障制度**などと関連付けて考察すること。

上記部分の解説「各ライフステージの特徴と課題，家族構成や収入・支出の変化，生涯の賃金や働き方，**社会保障制度**などと関連付けながら考えることができるようにする。また，将来を見通して，事故や病気，失業，災害などの不可避的なリスクや，**年金生活へのリスク**に備えた経済的準備としての資金計画を具体的な事例を通して考察できるようにする。」

(2018高校指導要領家庭解説「家庭基礎」部分より)

高校家庭科 実際の教科書(家庭基礎)では

むしろ以下の領域で扱われている。

A 人の一生と家族・家庭及び福祉

(4)高齢期の生活と福祉

- 例：高齢者の経済（東書）
- 例：高齢期の生活費を支える制度（教図）

(5)共生社会と福祉

- 社会保障制度全般の中で（各社）

高校家庭科の視点：「生活設計」

生涯を見通した「生活設計」

- 指導要領で科目の「まとめ」だけでなく、「**導入**」としても位置づけられた

2つの「生活設計」…家庭科では 1. が主流

1. 「自分が歩みたい人生を具体化し、長期、中期、短期の目標を立てていくこと」(東書より)
2. 「今後のライフプランを明確にし、そのために必要な資金を確保する」(実教より)

家庭科的に「年金」をとらえる視点

- **年金** = 「生活設計」を支える手段
- 制度の理解よりも
「**生活者視点**」での活用が中心
- だが、先々の話なので実感が湧きにくい
- 授業時数も限られているため、
効果的な教材が望まれる